「ＳＭＭＡが始まったときのはなし」

　ＳＭＭＡの計画が立ち上がったのは、2008 年、私がメディアテークの副館長を務めていたときのことです。それまで私たちは、宮城県美術館や宮城教育大学などとともに、地域に新しいアートとの出会いを広げるＳＣＡＮという連携事業に取り組んでいました。ノード（結節点）となることを運営理念のひとつとしているメディアテークにとって、それは館是にかかわる重要な仕事と考えていました。折しも、全国ではミュージアムと地域のつながりをいかに再生するかが大きな課題ともなっていて、文部科学省はミュージアムが連携して地域課題に向き合うことによるミュージアム活性化構想を掲げます。すでに館の枠を超えた地域活動を「仙台芸術遊泳」の名のもとに続けてきたＳＣＡＮは、それを受けるかたちで、それまでのアート事業という枠をはずし、あらためて地域のミュージアムに呼びかけ、ジャンルを越えた連携事業を協働するＳＭＭＡを立ち上げることにしました。

　単なる組織にとどまらずあくまでも連携事業を行うことを旨とするＳＭＭＡは、２館ずつがペアになってひとつの話題を提供するクロストークのシリーズを手始めに、クロス展示、ツアー、情報発信などさまざまな事業を開始します。立ち上げにあたっては、ＳＣＡＮで積み上げた経験、つなぎ手としてのメディアテークの存在、そしてなによりも、参加館（当時 11 館）がもつ多彩な人の力が大きな牽引力となりましたが、仙台市が掲げつつあったミュージアム都市構想や、2008 年からの仙台・宮城デスティネーションキャンペーンがもたらした地域の文化観光資源への関心の深まりが、ＳＭＭＡのスタートダッシュをあと押しした面も忘れることはできません。

佐藤泰美（発足時　SMMA 運営委員長）